

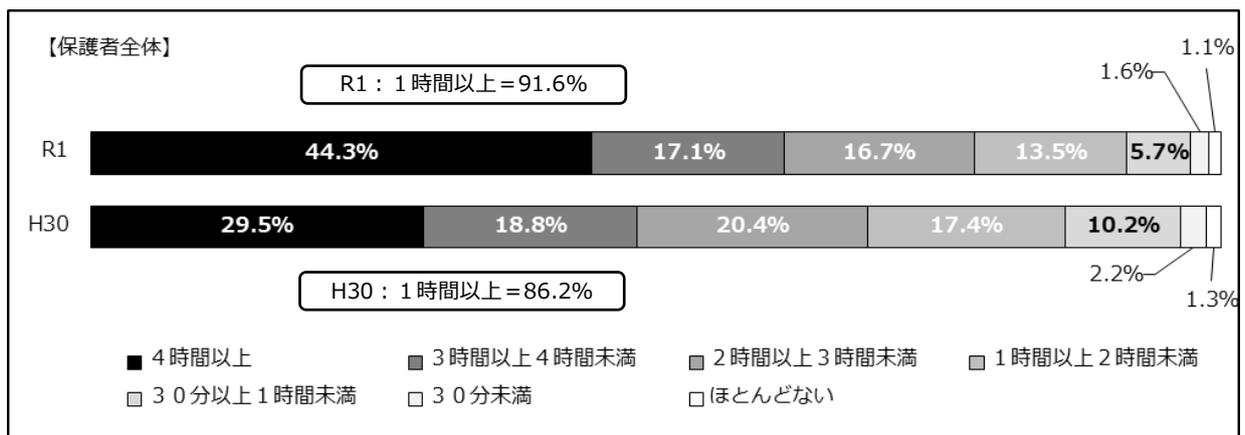
幼児教育に関わるアンケート結果（対象者：保護者）

○ 回答状況

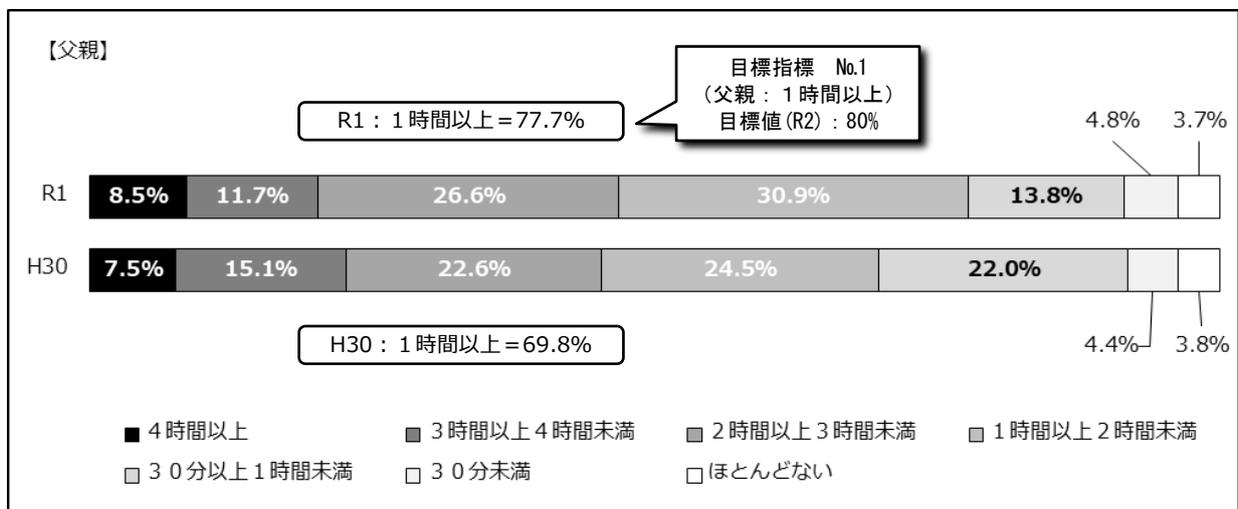
- ・ 回答数 2,559件
- ・ 施設別件数 幼稚園：1,328件，保育所：740件，認定こども園：381件，認可外保育施設等：110件
- ・ 居住地
- ・ 回答方法 スマートフォン：85.7%，パソコン：14.3%

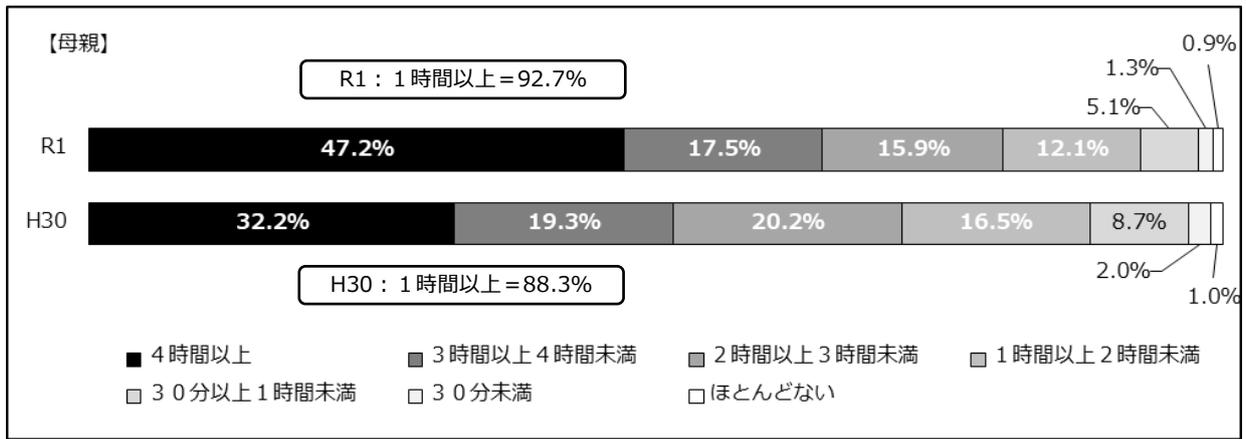
1 親子のかかわりについて

1-1-1 あなたは、平日（休日以外）にお子さんと触れ合う時間はどの位ありますか。（食事と入浴を除いた1日当たりの平均時間）

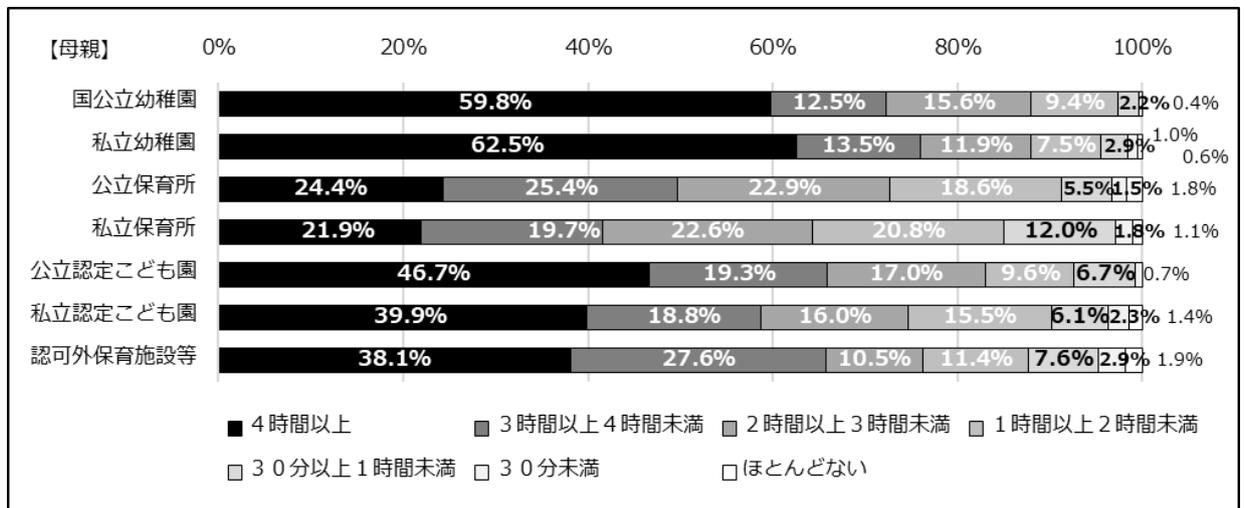
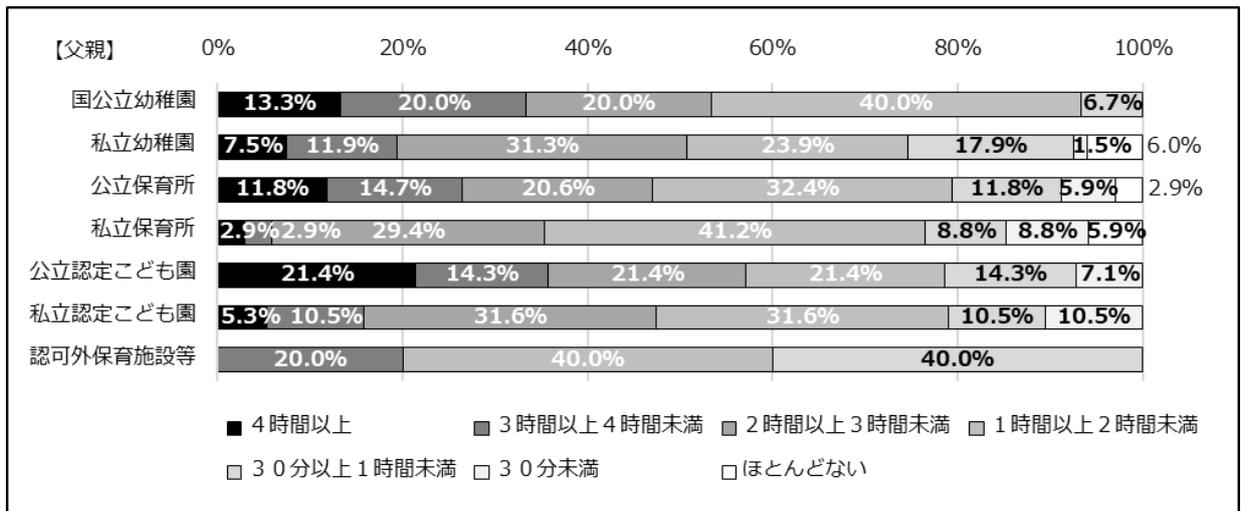


(父親・母親別内訳)





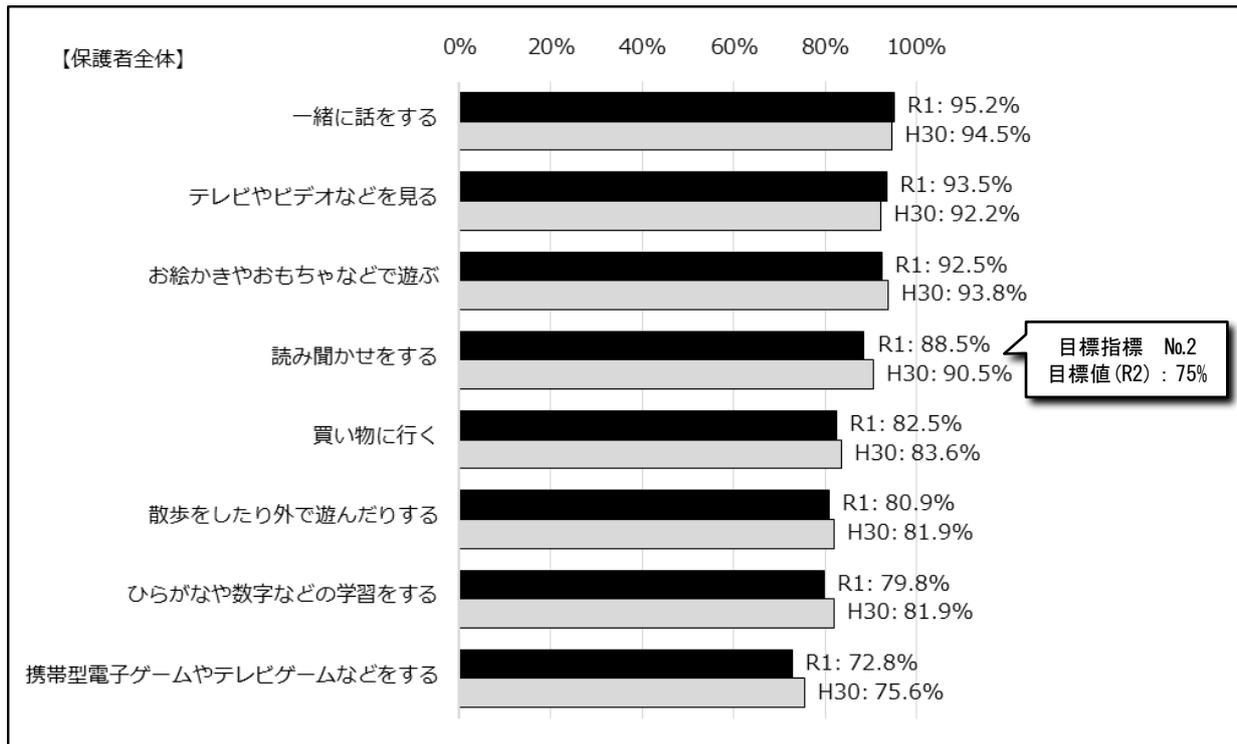
(父親・母親別の施設類型別内訳)



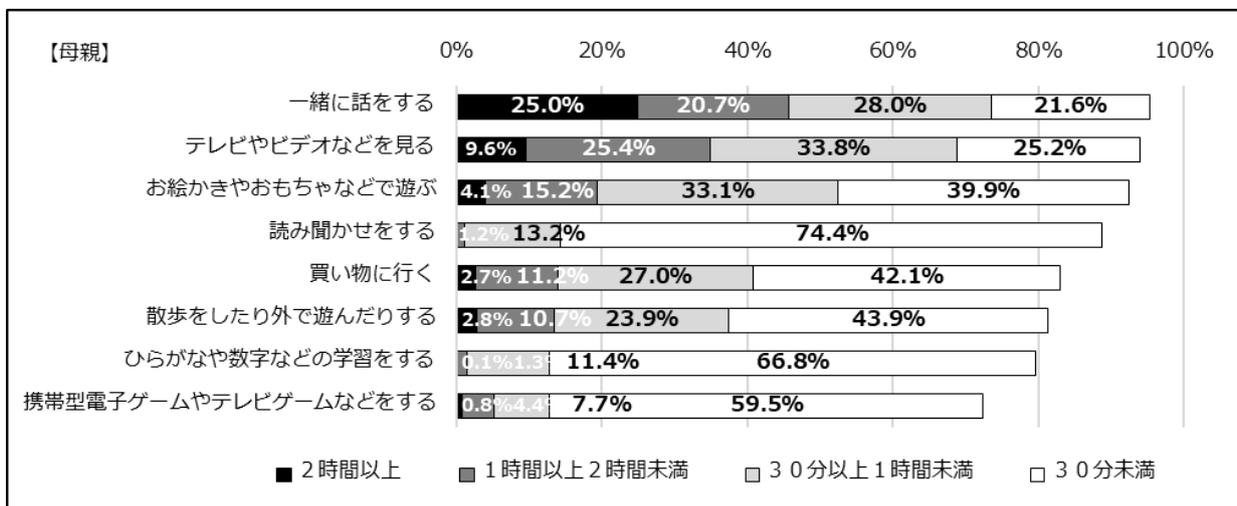
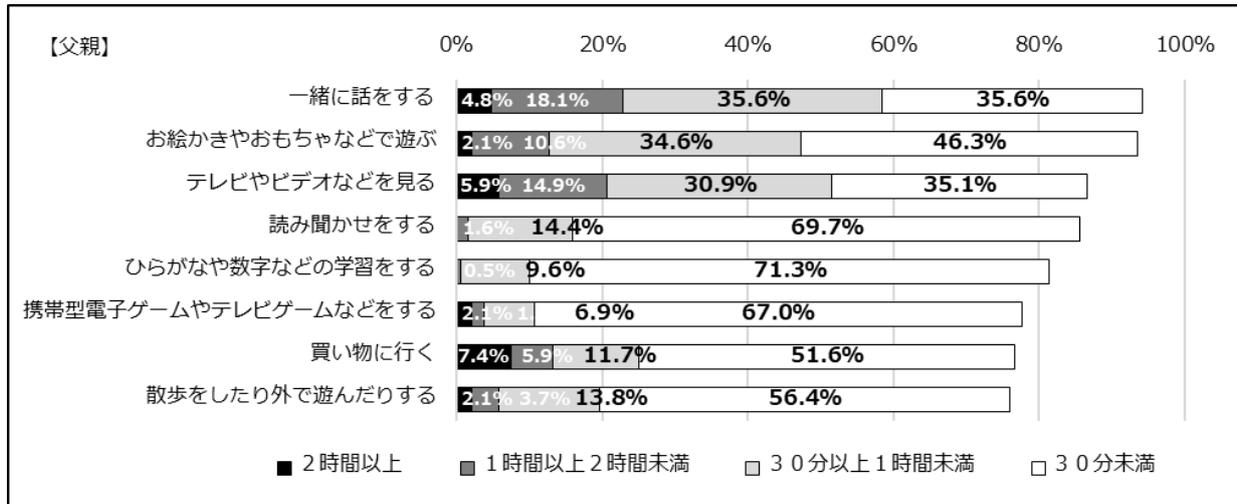
【概要・考察】

- 平日、子供と触れ合う時間が1時間以上と答えた割合は、父親・母親ともに昨年度から7.9ポイント、4.4ポイントそれぞれ増加した。
- 本アンケートの他設問結果において、昨年度と比較して「仕事が多忙である」と答えた割合が減少したこととの関連性もみられる。

1-1-2 「1-1-1」で選択した時間において、お子さんと一緒に何をすることが多いですか。
 (該当するもの全てを選択し、それぞれの時間も選択)



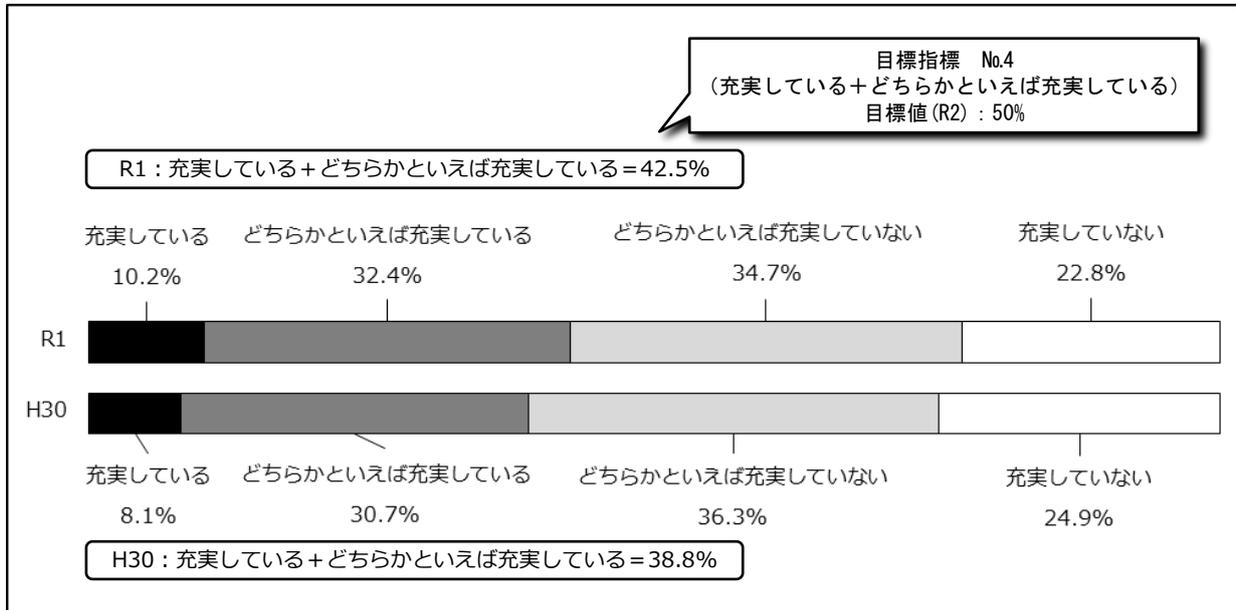
(父親・母親別内訳)



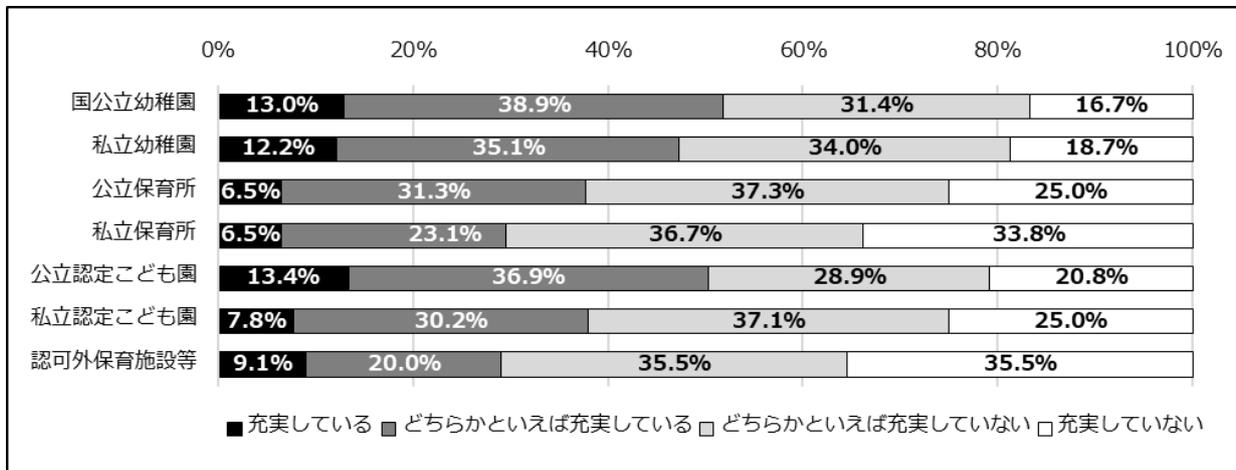
【概要・考察】

- 子供と触れ合う内容について、「読み聞かせをする」と答えた割合は、昨年度から2.0ポイント減少したが、目標値を超えている。
- 父親・母親別では、「一緒に話をする」と答えた割合が、父親・母親ともに最も高く、家庭での親子間の愛着形成が図られていることがうかがえる。

1-2 親として成長していくための学ぶ機会（母親学級や父親学級，両親学級など）は充実していますか。



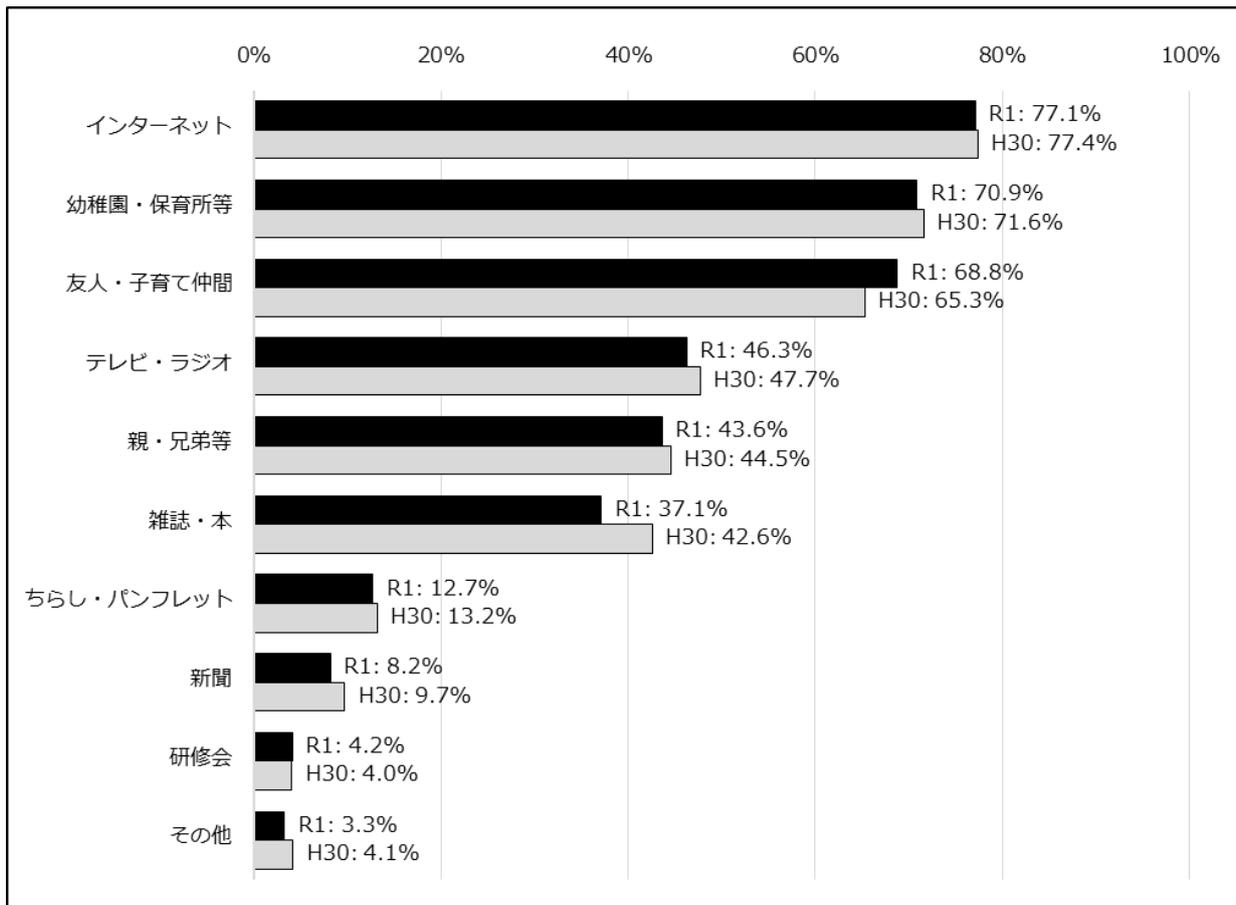
(施設類型別内訳)



【概要・考察】

- 学ぶ機会が「充実している」、「どちらかといえば充実している」と答えた割合は、昨年度から3.7ポイント増加した。
- 施設類型別では、国公立幼稚園、公立認定こども園で「充実している」、「どちらかといえば充実している」と答えた割合が、それぞれ50%以上であり、目標値を超えている。
- 親の学びについて、家庭教育の観点から県教育庁生涯学習課等で様々な取組により支援しているため、このような学ぶ機会の充実を図りながら、取組の情報を積極的に提供し、親自身の学ぶ意識をさらに啓発する必要がある。

1-3 子育てに関する情報（知識）は、主にどのようなところから得ていますか。
（該当するもの全て選択）



【その他の主な内容】

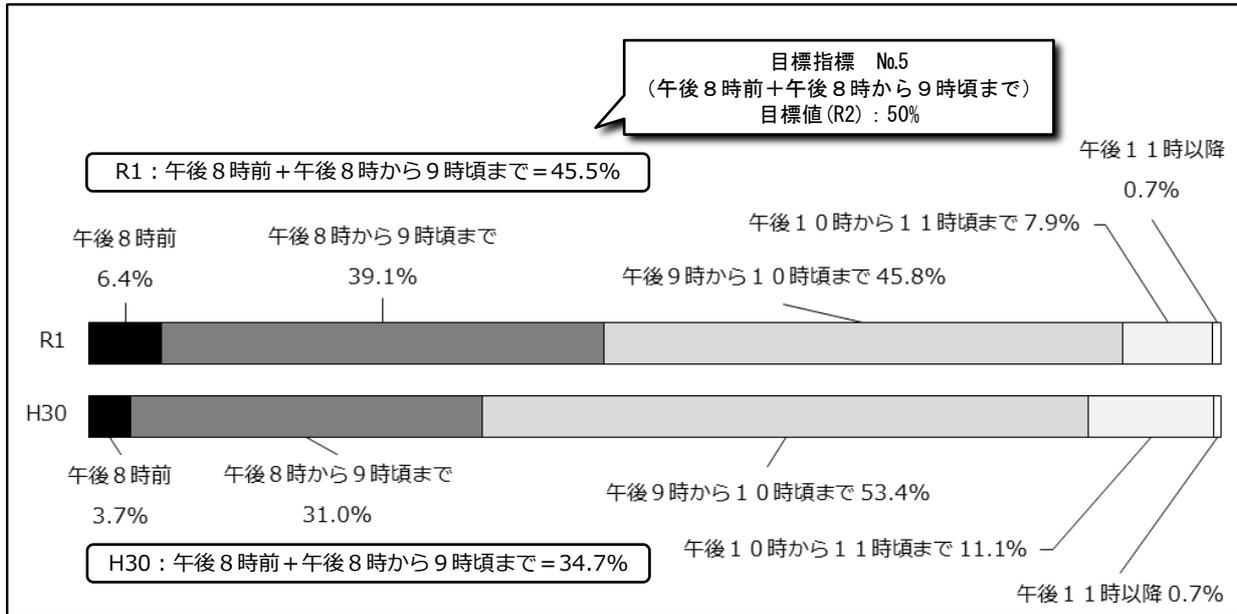
職場、児童館、地域の子育て支援センター、習い事教室、SNS、病院 等

【概要・考察】

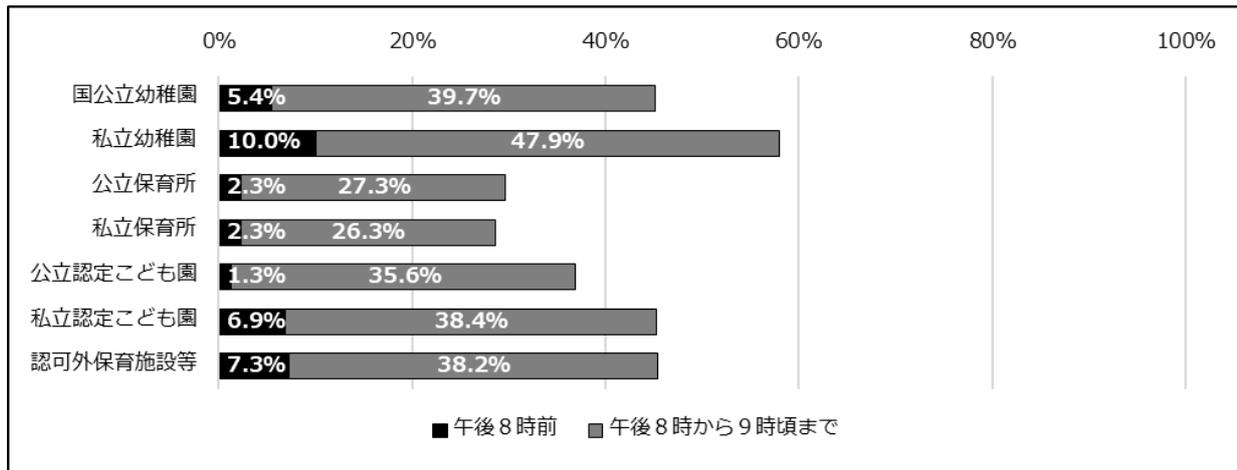
- 昨年度と同じく「インターネット」から情報を得ている割合が最も高かった。
- また、「幼稚園・保育所等」、「友人・子育て仲間」、「親・兄弟等」のように人を介して情報を得ている割合も高かった。
- 今後、インターネットや施設へのちらし送付などを用いて情報を提供する上で、最適な提供方法を検討しながら周知する必要がある。

2 お子さんの基本的な生活習慣について

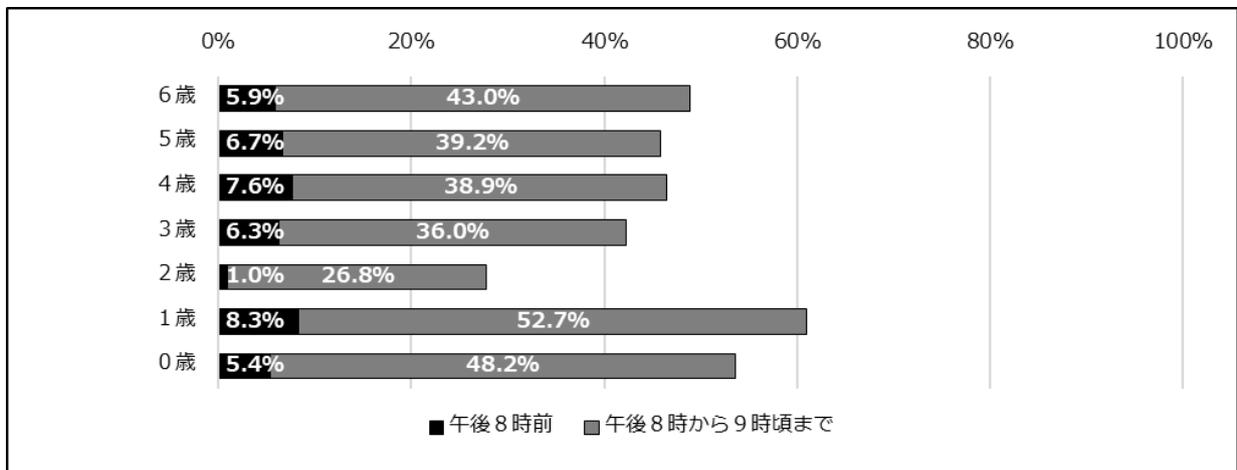
2-1-1 お子さんはいつも何時頃に寝ていますか。



(施設類型別内訳)



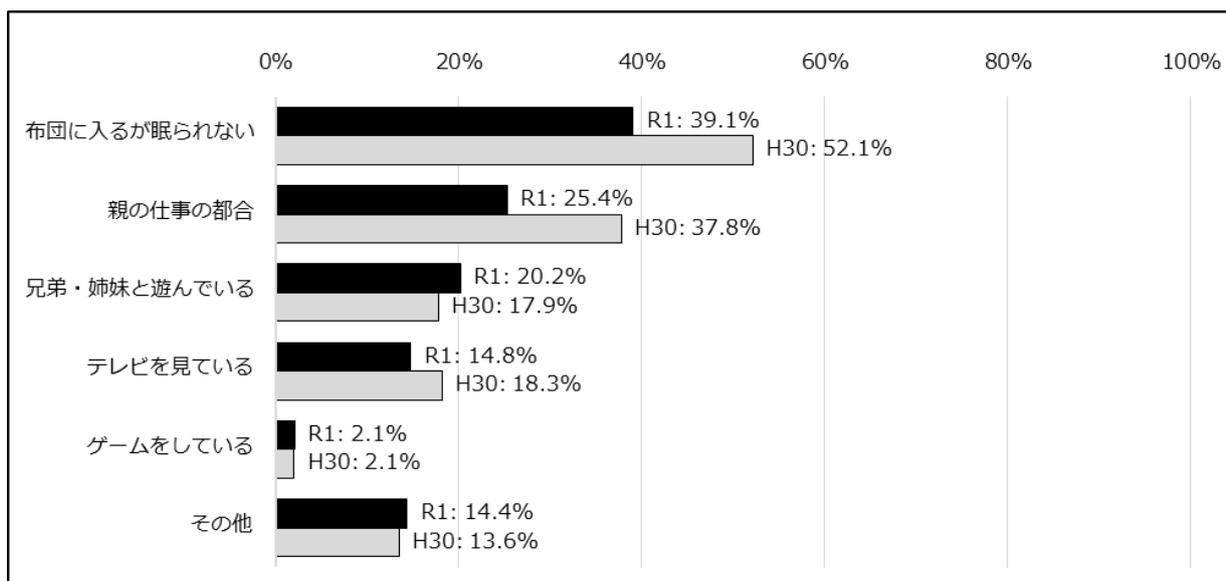
(年齢別内訳)



【概要・考察】

- 子供が県で推奨している「午後9時頃まで」に就寝すると答えた割合は、昨年度から10.8ポイント増加した。
- 一方で、子供が「午後11時以降」に就寝すると答えた割合が0.7%だった。割合としては1%に満たないが、全2,559件の回答数のうち19件の保護者の子供がいつも「午後11時以降」に就寝するという結果だった。
- 就寝時刻の改善について、基本的な生活習慣の確立の観点から、引き続き啓発する必要がある。

2-1-2 お子さんが午後9時以降に寝ることがある場合どのような理由ですか。
(該当するもの全て選択)



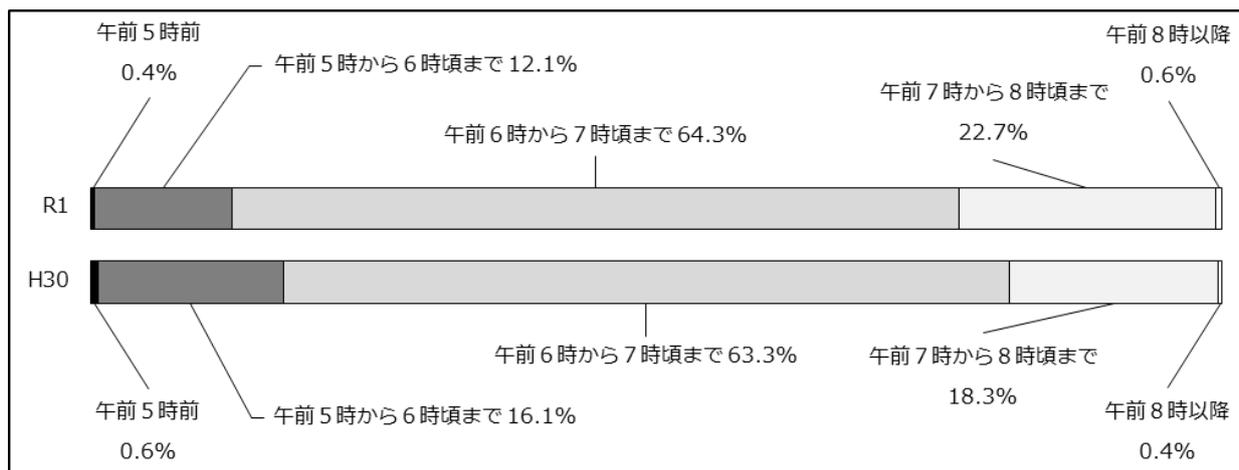
【その他の主な内容】

昼寝の時間が長かった、夕寝をした、父親の帰りを待っていた、
習い事（子供自身・兄弟・姉妹）があった、旅行等の外出をした 等

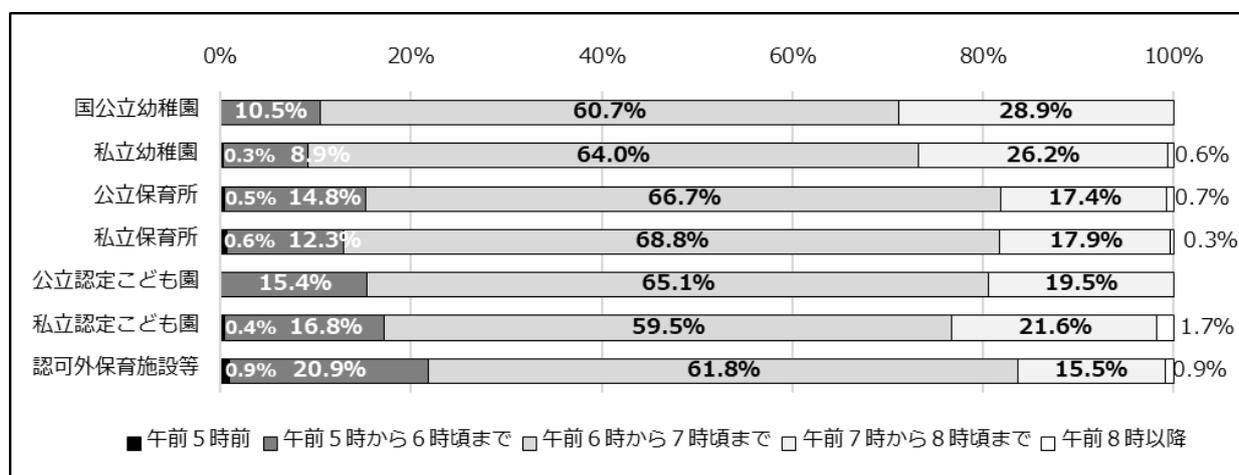
【概要・考察】

- 昨年度と同じく「布団に入るが眠られない」、 「親の仕事の都合」を理由として答えた割合は高かったが、数値が昨年度からそれぞれ大幅に減少した。
- 一方で、「ゲームをしている」を理由として答えた割合が2.1%だった。割合としては低いですが、全2,559件の回答数のうち54件の保護者の子供が「ゲームをしている」ことを理由に「午後9時以降」に就寝することがあるという結果だった。

2-2 お子さんはいつも何時頃に起きますか。



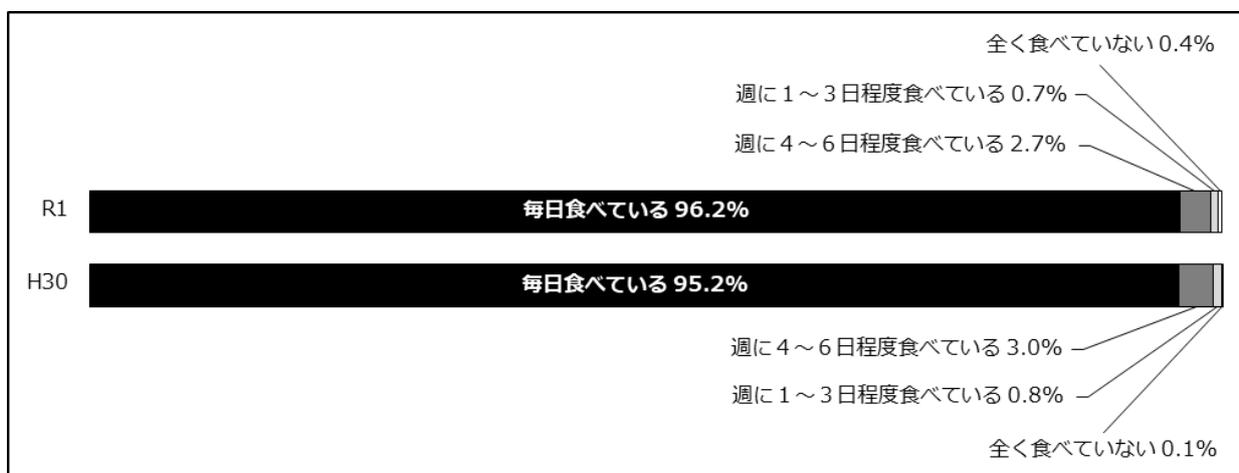
(施設類型別内訳)



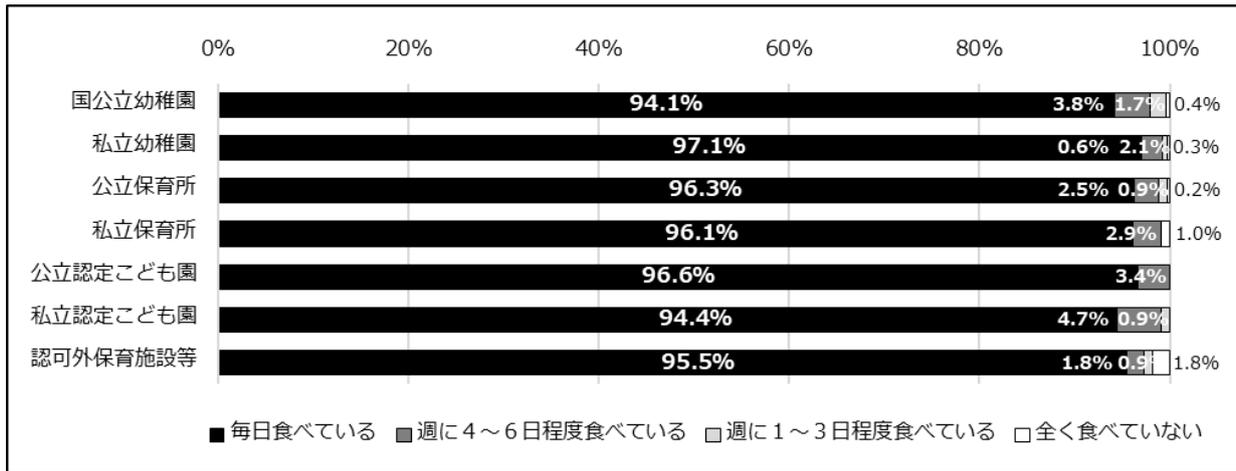
【概要・考察】

○ 昨年度との割合の比較に大幅な変化はみられず、施設類型別でも偏りはみられない。

2-3-1 お子さんは毎日、朝ごはんを食べていますか。



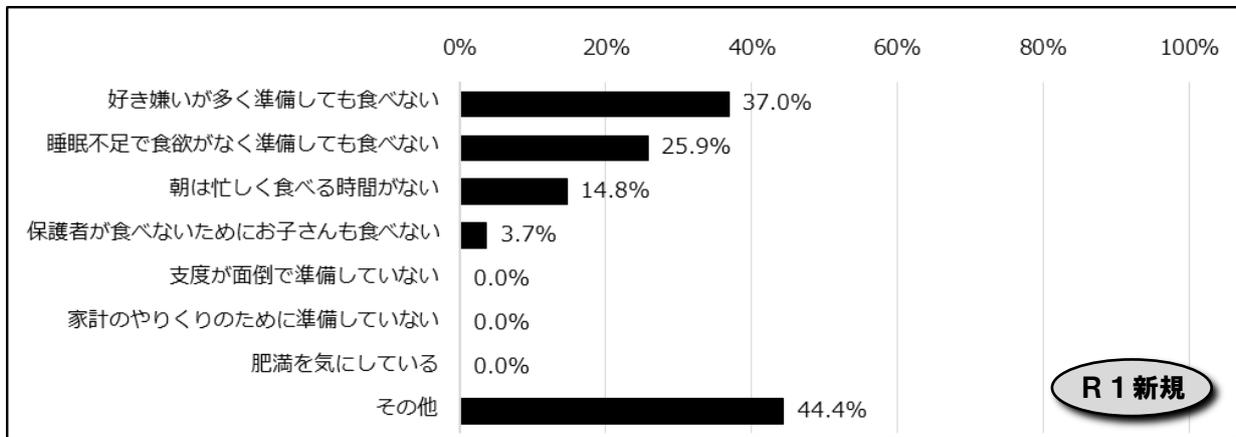
(施設類型別内訳)



【概要・考察】

- 朝食を「毎日食べている」と答えた割合は、昨年度から1.0ポイント増加した。
- また、朝食を「毎日食べている」、「週に4～6日程度食べている」と答えた割合も、昨年度から0.7ポイント増加したことから、朝食の欠食率に対する改善傾向がみられる。
- 一方で、朝食を「全く食べていない」と答えた割合が、昨年度から0.3ポイント増加した。
- 学力や運動能力向上の面から、朝食を摂ることの重要性について、引き続き啓発する必要がある。

2-3-2 「2-3-1」で「週に1～3日程度食べている」又は「全く食べていない」を選択した方は、お子さんが朝ごはんを食べない理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



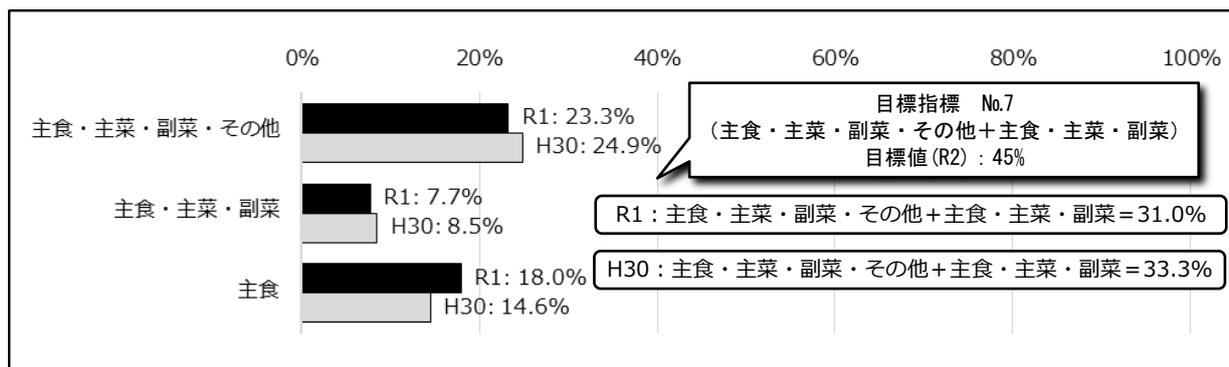
【その他の主な内容】

離乳食（昼夜）のため、気分で食べないため、小食な体質のため 等

【概要・考察】

- 「好き嫌が多く準備しても食べない」、「睡眠不足で食欲がなく準備しても食べない」を理由として答えた割合が高く、保護者が準備しても子供自身が食べない理由が目立った。
- 中でも、「睡眠不足で食欲がなく準備しても食べない」理由に対しては、就寝時刻などの基本的生活習慣の見直しにより、改善が促され、朝食欠食の解消が期待される。
- 睡眠時間等の基本的生活習慣に係る時間が、一定の影響を及ぼしている可能性が高いと考えられる。

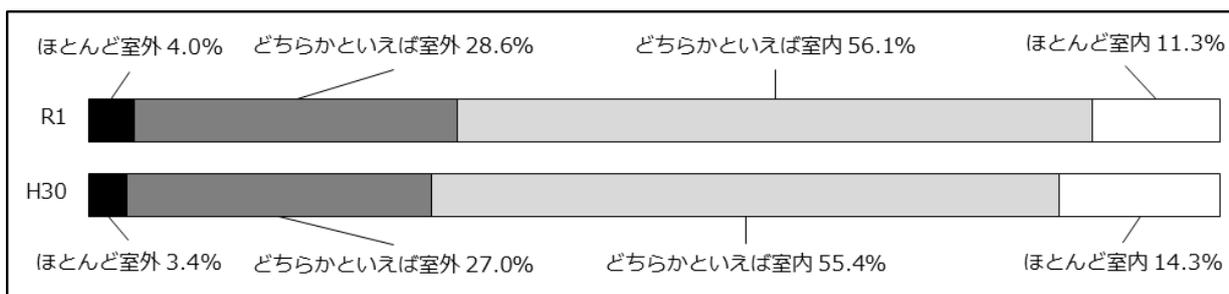
2-3-3 お子さんの朝ごはんにそろえるものは「主食」「主菜」「副菜」のどれが多いですか。
(該当するもの全て選択)



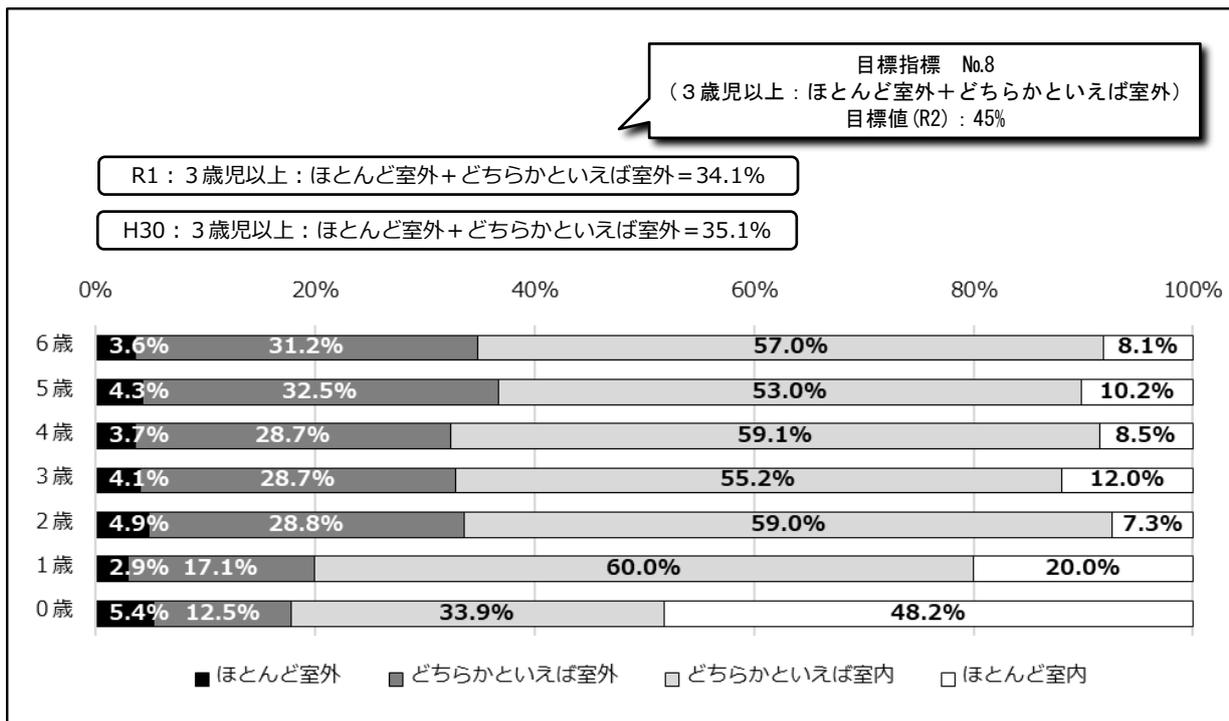
【概要・考察】

- 朝食に「主食・主菜・副菜・その他」, 「主食・主菜・副菜」をそろえると答えた割合は, 昨年度から2.3ポイント減少した。
- 一方で, 朝食に「主食」のみをそろえると答えた割合が, 昨年度から3.4ポイント増加した。
- 朝食の必要性とともに, 栄養バランスのよい朝食を摂ることの重要性を合わせて啓発する必要がある。

2-4 お子さんは平日や休日に家庭で遊ぶとき, 室内, 室外のどちらが多いですか。



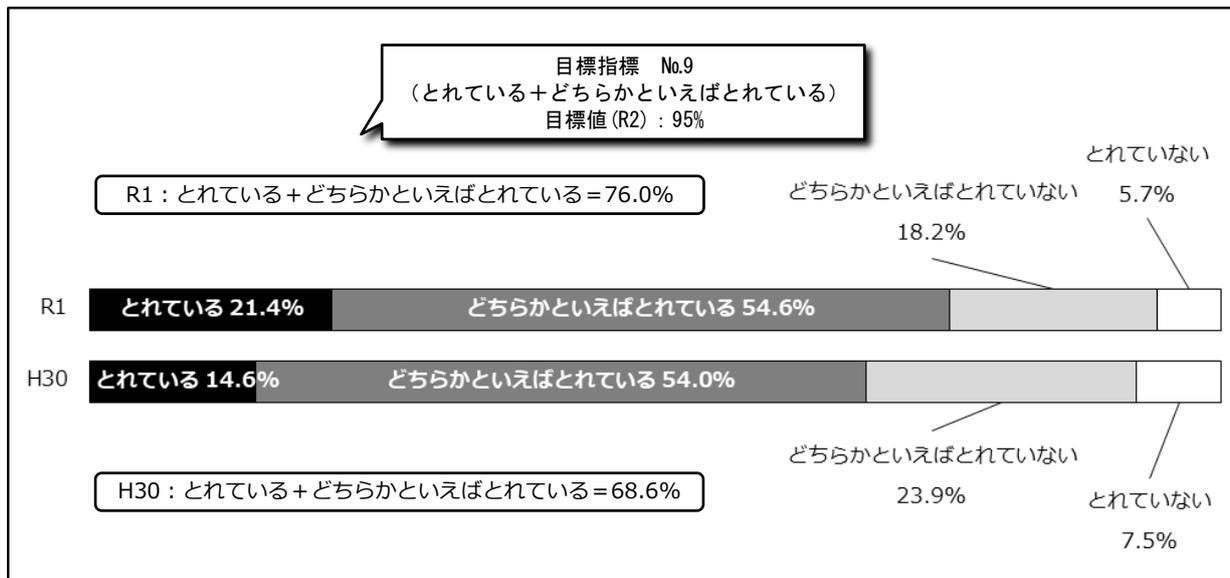
(年齢別内訳)



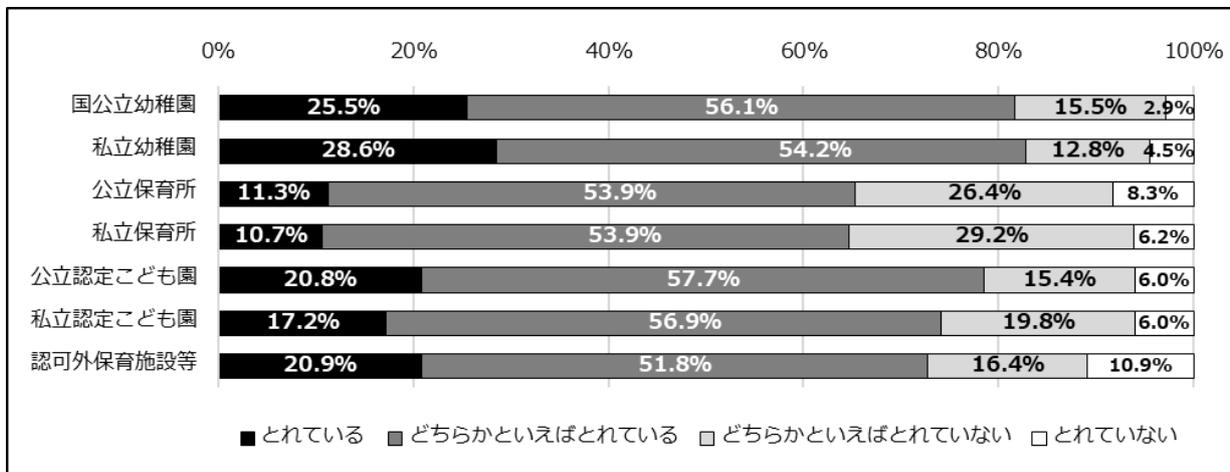
【概要・考察】

- 家庭で遊ぶとき「ほとんど室外」，「どちらかといえば室外」と答えた割合は，昨年度から2.2ポイント増加した。
- 年齢別では，3歳児以上が家庭で遊ぶとき「ほとんど室外」，「どちらかといえば室外」と答えた割合は，昨年度から1.0ポイント減少した。

2-5-1 お子さんの基本的生活習慣の確立のために，生活と親の仕事のバランス（「ライフ・ワーク・バランス」）がとれていますか。



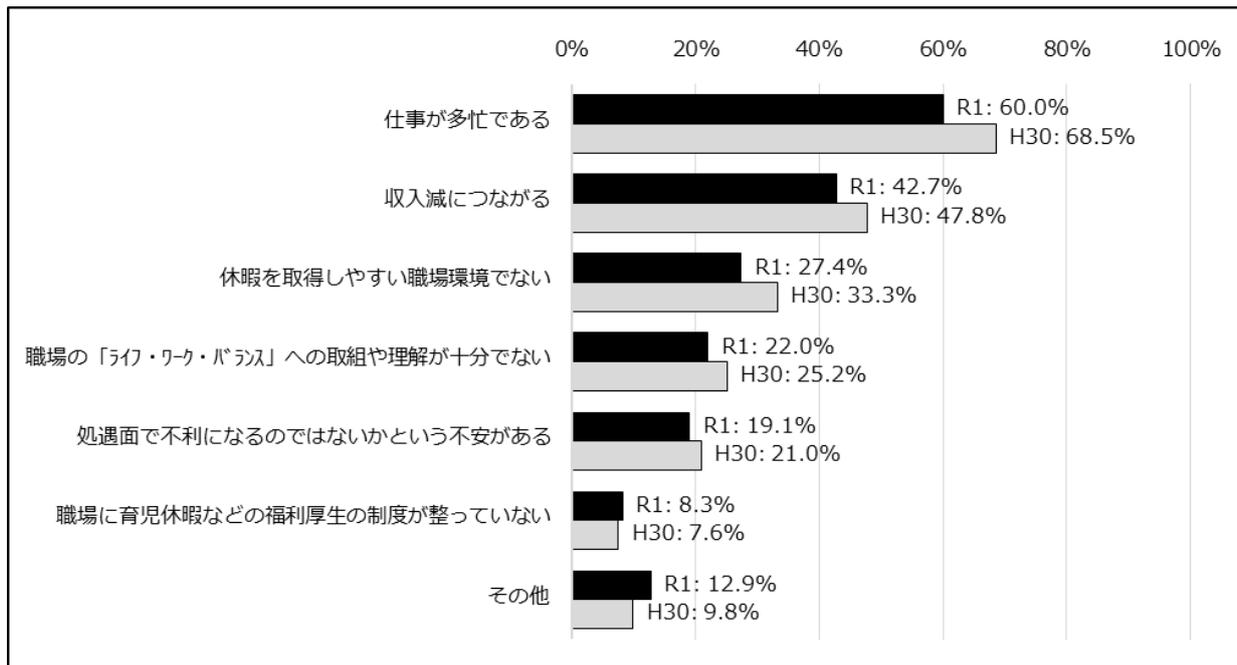
(施設類型別内訳)



【概要・考察】

- 生活と親の仕事のバランス（「ライフ・ワーク・バランス」）が「とれている」，「どちらかといえばとれている」と答えた割合は，昨年度から7.4ポイント増加した。
- 本アンケートの他設問結果において，昨年度と比較して「子供と触れ合う時間が1時間以上」と答えた割合が増加したこととの関連性もみられる。「働き方改革」の推進や「学ぶ土づくり」推進計画の施策により，意識が高まってきたことが考えられる。

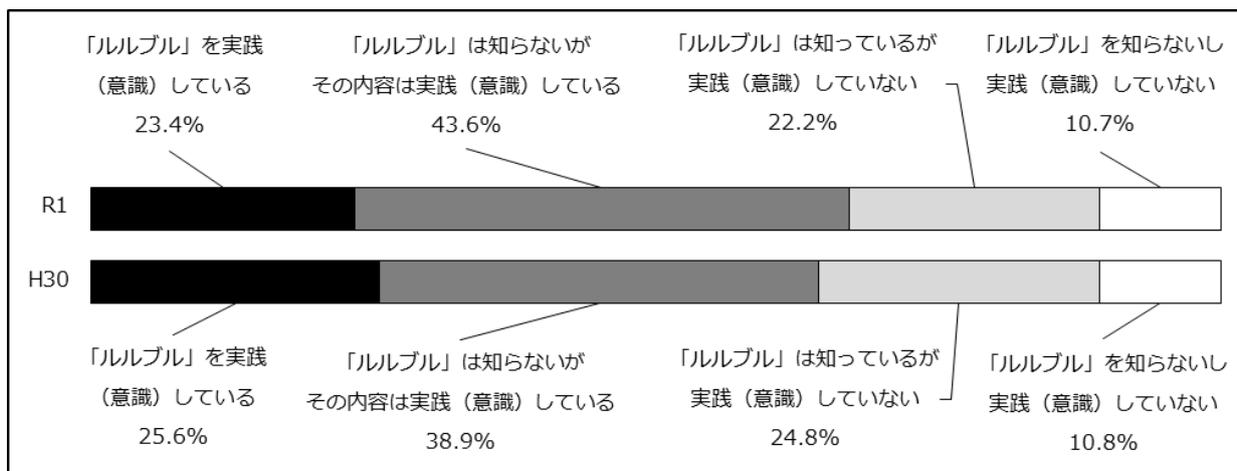
2-5-2 「2-5-1」で「どちらかといえばとれていない」又は「とれていない」を選択した方は、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



【その他の主な内容】
勤務時間が不規則なため、休日が少ないため、父親が単身赴任で不在であるため、時短勤務が気軽にできないため 等

【概要・考察】
○ 昨年度と同じく「仕事が多忙である」を理由として答えた割合が最も高かった。
○ 一方で、回答の数値が、昨年度からそれぞれ減少したことから、「仕事が多忙である」などのそれぞれの理由に対する改善傾向がみられる。

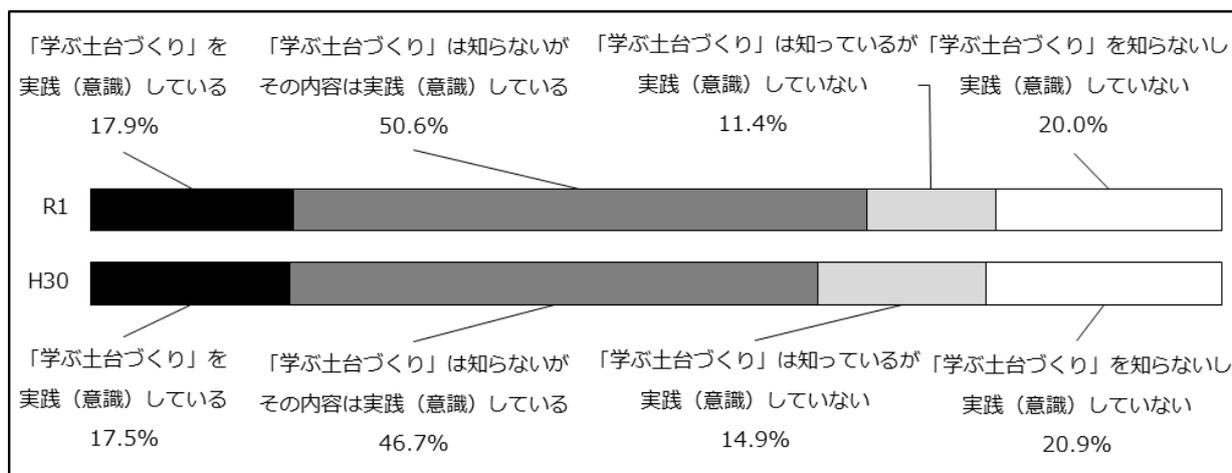
2-6 子供の基本的生活習慣の確立に向けた「ルルブル」の取組に関して、家庭における取組状況についてお答えください。



【概要・考察】

- 「ルルブル」の取組を「実践（意識）している」、「知らないが、その内容は実践（意識）している」と答えた割合は、昨年度から2.5ポイント増加したことから、多くの家庭で前向きに取り組まれていると考えられる。
- また、「知っているが、実践（意識）していない」と答えた割合が、昨年度から2.6ポイント減少した。
- 一方で、「知らないが、その内容は実践（意識）している」、「知らないし、実践（意識）していない」と答えた割合が、54.3%だったことから、引き続き、普及啓発から実践につなげる取組を行う必要がある。

2-7 幼児教育の充実に向けた「学ぶ土台づくり」の取組に関して、家庭における取組状況についてお答えください。



【概要・考察】

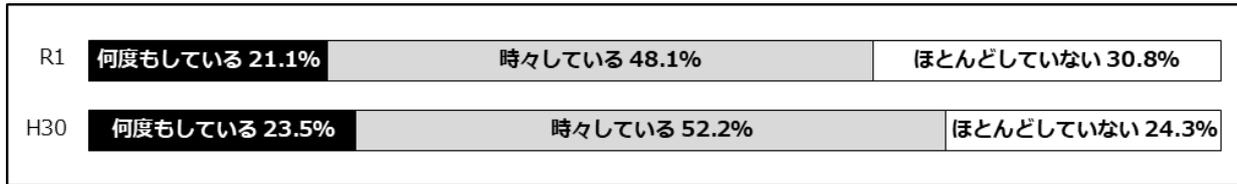
- 「学ぶ土台づくり」の取組を「実践（意識）している」、「知らないが、その内容は実践（意識）している」と答えた割合は、昨年度から4.3ポイント増加したことから、多くの家庭で前向きに取り組まれていると考えられる。
- また、「知っているが、実践（意識）していない」と答えた割合が、昨年度から3.5ポイント減少した。
- 一方で、「知らないが、その内容は実践（意識）している」、「知らないし、実践（意識）していない」と答えた割合が、70.6%だったことから、引き続き、普及啓発から実践につなげる取組を行う必要がある。

（今年度の教員・保育士と保護者の実践（意識）の比較）

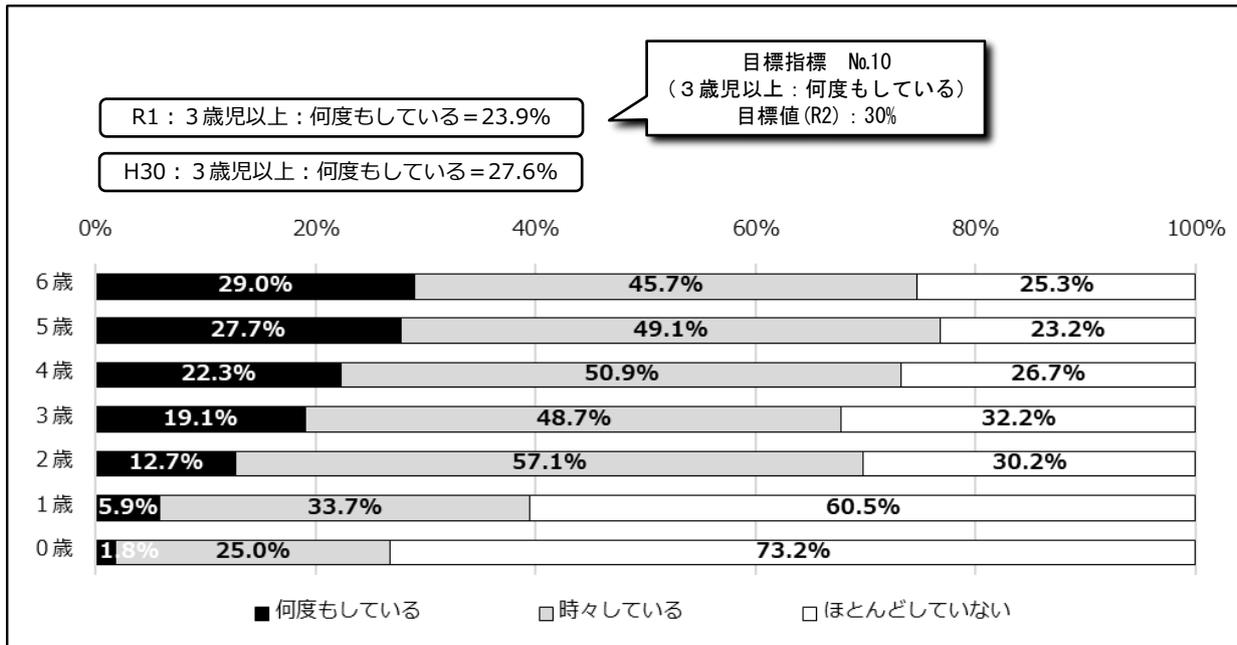
種別	ルルブル		学ぶ土台づくり	
	教員・保育士	保護者	教員・保育士	保護者
実践（意識）している	58.2%	23.4%	62.2%	17.9%
知らないが、その内容は実践（意識）している	11.2%	43.6%	12.9%	50.6%
実践（意識）している割合	69.4%	67.0%	75.1%	68.5%
知っているが、実践（意識）していない	25.7%	22.2%	19.7%	11.4%
知らないし、実践（意識）していない	4.8%	10.7%	5.3%	20.0%

3 お子さんの体験活動について

3-1-1 お子さんは自然体験活動（水遊び、虫捕り、キャンプ、ハイキングなど）をどの位していますか。



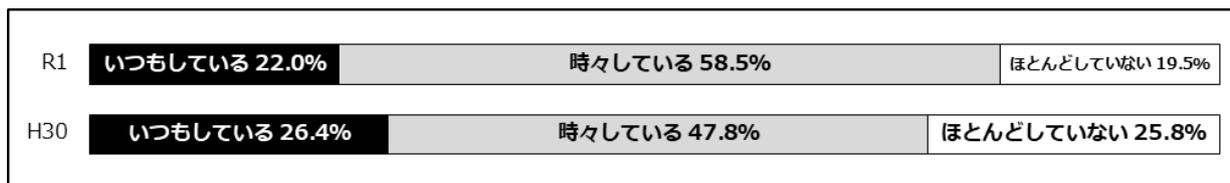
(年齢別内訳)



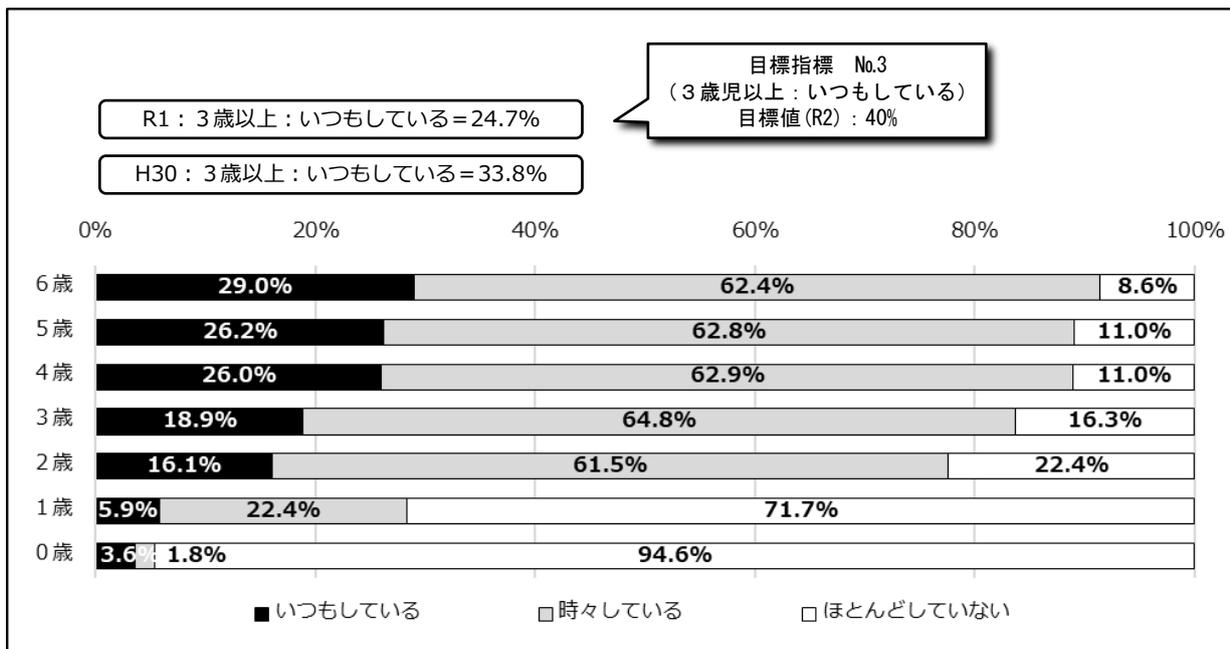
【概要・考察】

- 自然体験活動を「何どもしている」と答えた割合は、昨年度から2.4ポイント減少した。
- 年齢別では、3歳児以上が自然体験活動を「何どもしている」と答えた割合が、昨年度から3.7ポイント減少した。
- 年齢が上がるごとに、自然体験活動をする頻度が高くなる傾向がみられることから、成長とともに多様な活動ができるようになるためだと考えられる。

3-1-2 お子さんは家事・手伝い（食事の配膳・片付けや掃除，洗濯物をたたむなど）をどの位していますか。



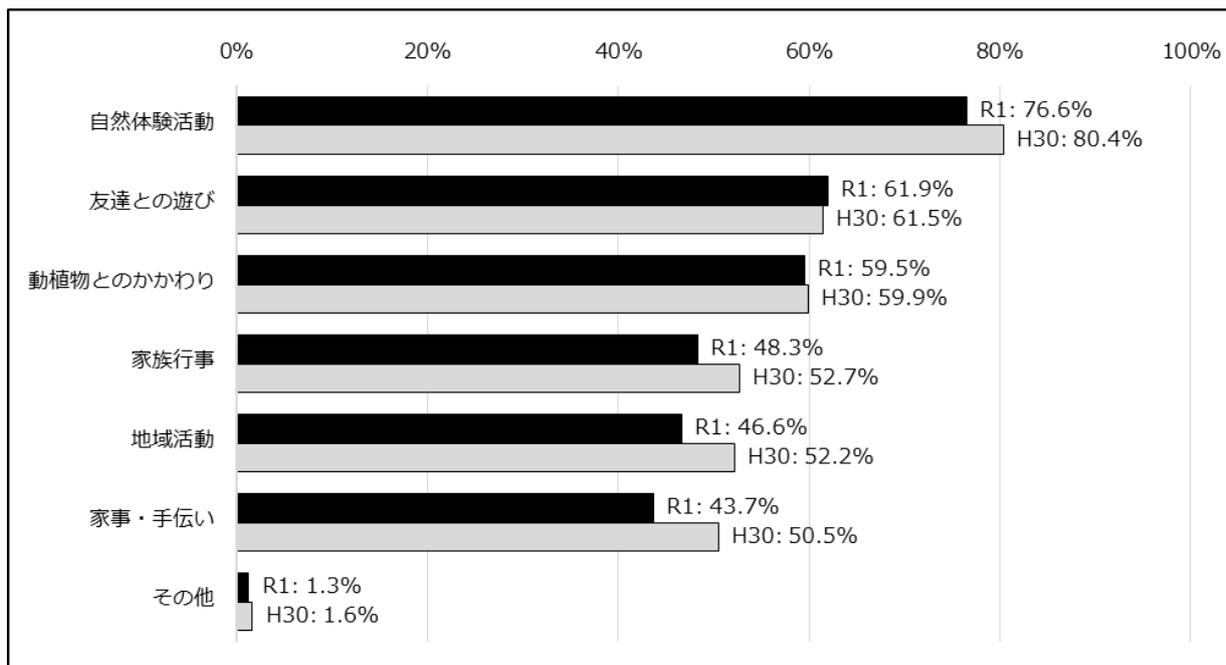
（年齢別内訳）



【概要・考察】

- 家事・手伝いを「いつもしている」と答えた割合は，昨年度から4.4ポイント減少した。
- 年齢別では，3歳児以上が家事・手伝いを「いつもしている」と答えた割合が，昨年度から9.1ポイント減少した。
- また，3歳児以上が家事・手伝いを「いつもしている」，「時々している」と答えた割合は，各年齢で80%以上であるため，子供が家族の一員としての存在であることを再認識し，家庭での役割を果たす経験をしていることがうかがえる。

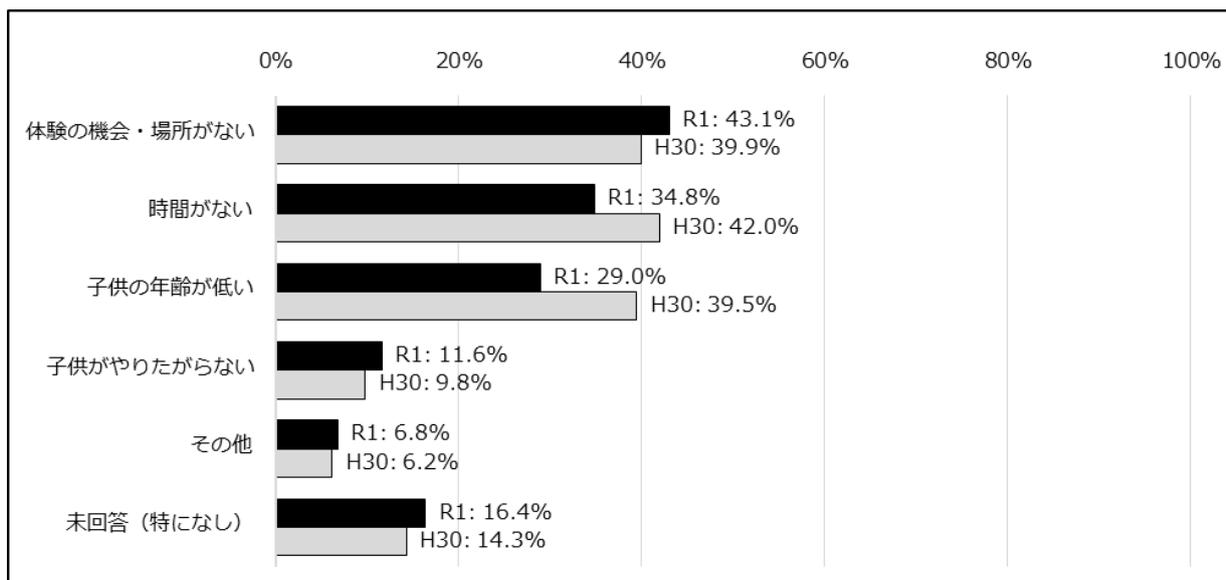
3-2-1 家庭や地域でお子さんに体験させたい活動をお答えください。（該当するもの3つ選択）



【その他の主な内容】
異文化交流，スポーツ，異年齢との交流，芸術，本人がやりたいと思ったこと 等

【概要・考察】
 ○ 昨年度と同じく「自然体験活動」，「友達との遊び」と答えた割合が高かった。
 ○ 一方で，昨年度と体験させたい活動の順位に変化はないものの，「友達との遊び」以外の活動の数値が減少した。

3-2-2 「3-2-1」の活動について，お子さんに体験させることが難しいと感じることがありましたら，その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）

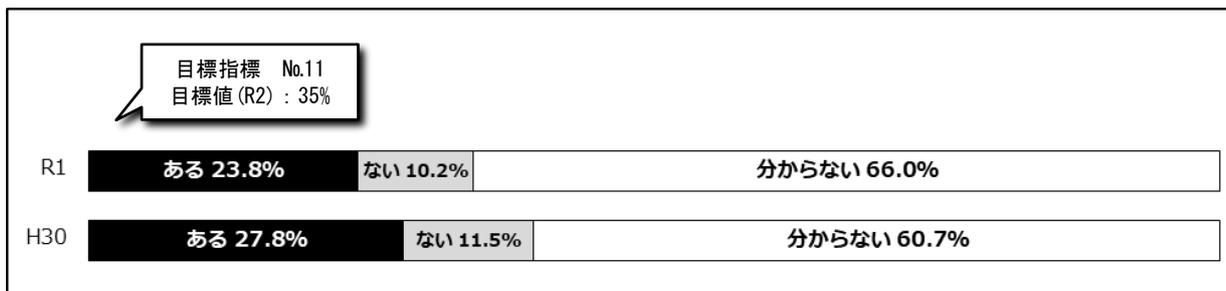


【その他の主な内容】
 下の子が小さいため，金銭面での不安があるため，仕事等で保護者に余力がない，
 保護者自身に体験活動の経験が少ないため，情報収集の仕方が分からないため，体験の場所が遠いため 等

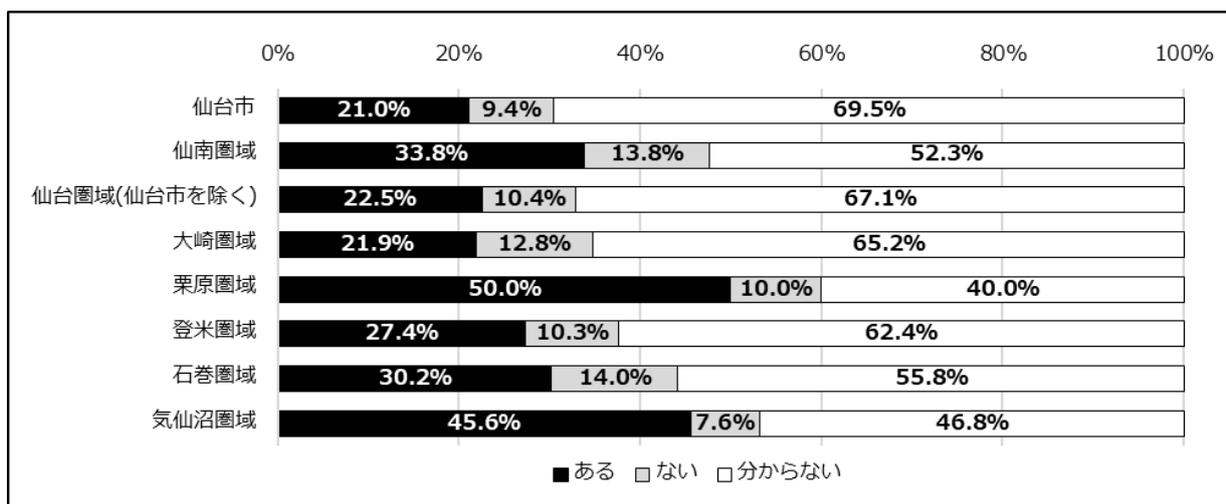
【概要・考察】

- 「体験の機会・場所がない」を理由として答えた割合が最も高く、次いで「時間がない」が高かったが、昨年度と順位が逆転している。
- 本アンケートの他設問結果と関連づけられるように、昨年度と比較して子供と触れ合う時間が増加したものの、「体験の機会・場所がない」ために、昨年度と比較して自然体験活動を「何度もしている」と答えた割合が減少したとみられる。

3-3 あなたがお住まいの地域では、自然体験活動等について参加できるイベントや催しなどがありますか。



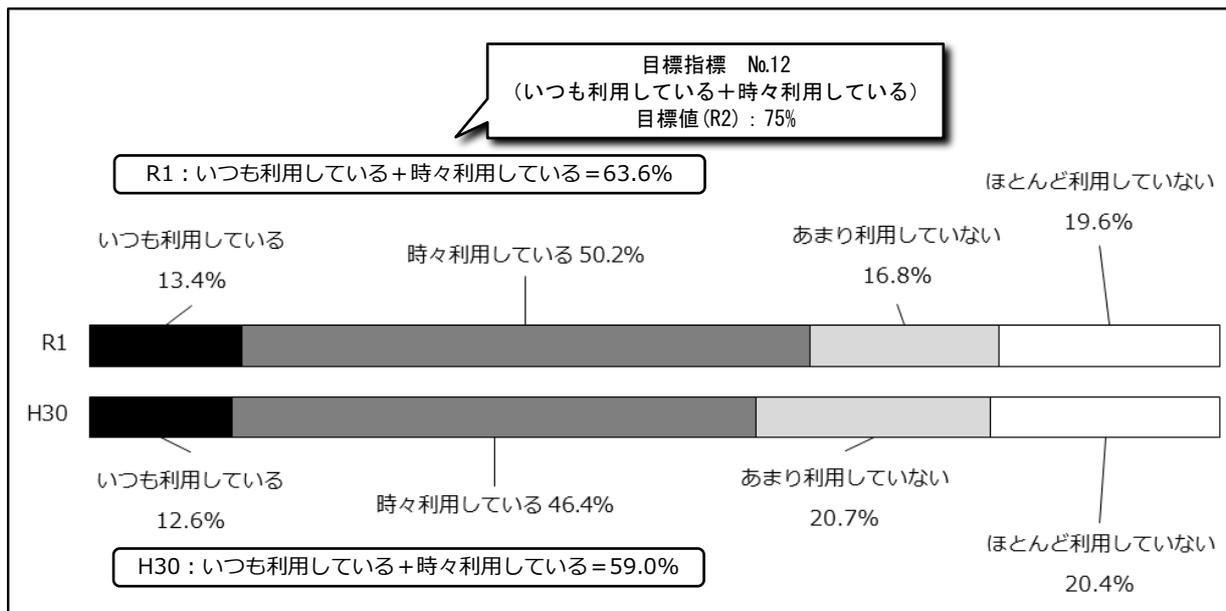
(圏域別内訳)



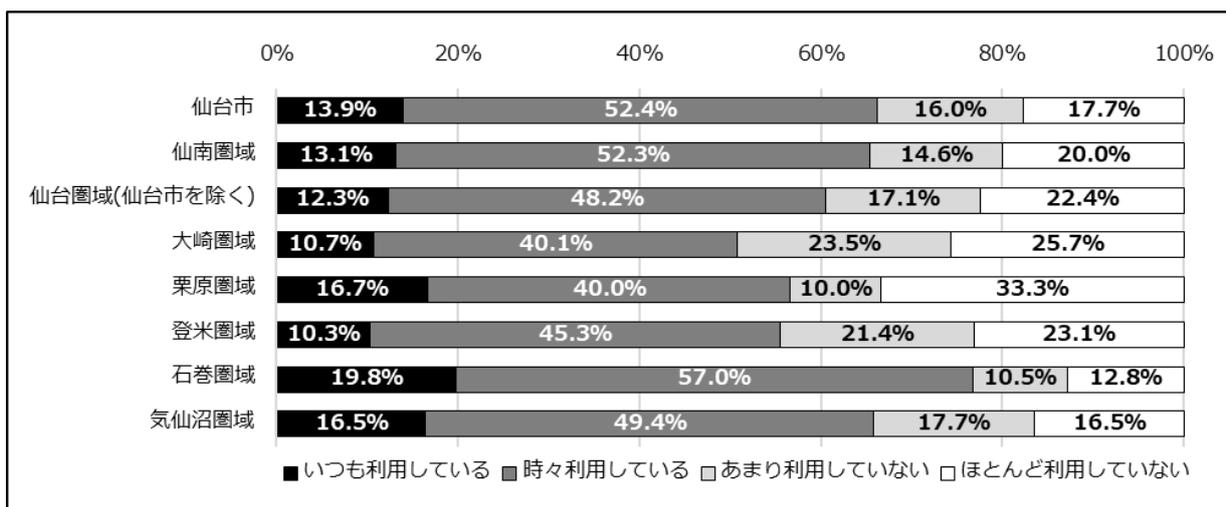
【概要・考察】

- 居住する地域において、参加できるイベントや催しが「ある」と答えた割合は、昨年度から4.0ポイント減少した。
- 圏域別では、自然の家などの施設がある気仙沼圏域等で「ある」と答えた割合が高い傾向がみられる。
- 県内全域で、「分からない」と答えた割合が高かったことから、具体的なイベントや催しの周知方法に工夫が必要である。

3-4 遊び場として、公園や公民館、児童館などのコミュニティ施設を利用していますか。



(圏域別内訳)

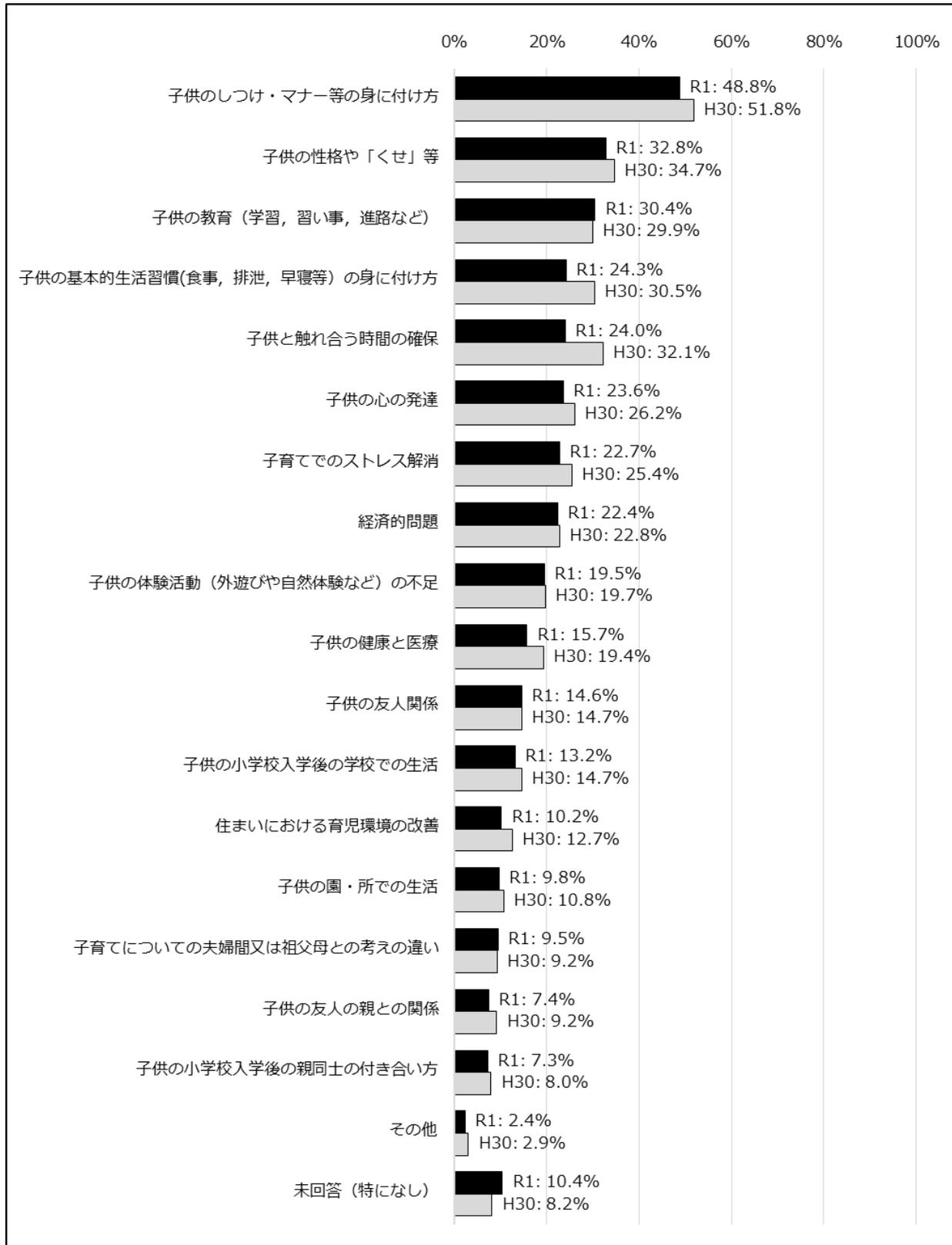


【概要・考察】

- 遊び場としてコミュニティ施設を「いつも利用している」, 「時々利用している」と答えた割合は、昨年度から4.6ポイント増加した。
- 圏域別では、石巻圏域で「いつも利用している」, 「時々利用している」と答えた割合が、78.8%であり、目標値を超えている。
- 今後は、遊び場の情報を積極的に提供する必要がある。

4 幼児教育の環境について

4-1 子育てで悩んでいることがありましたら、その内容をお答えください。（該当するもの全て選択）



【その他の主な内容】

子供の遊び場の減少，兄弟・姉妹の関係性，父親の子育てへのかかわり方 等

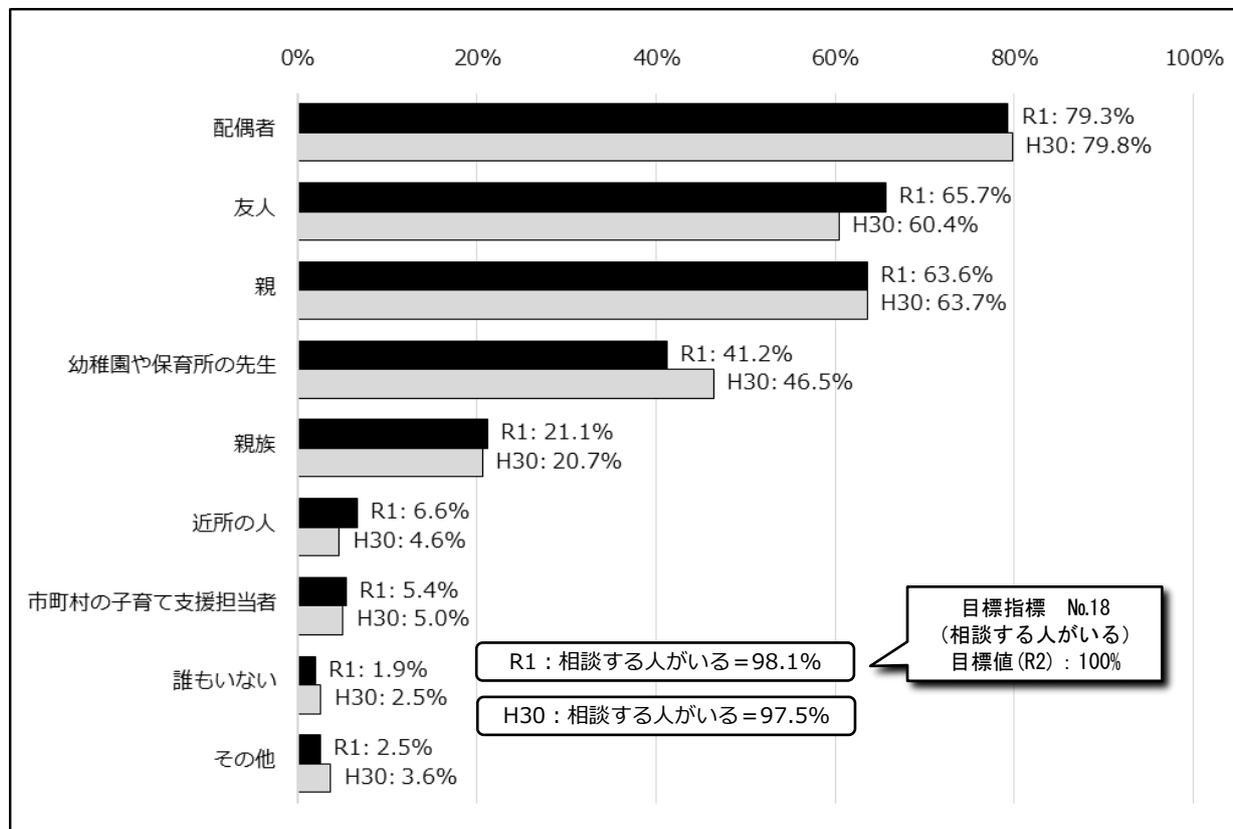
(今年度の年齢別上位項目)

年齢 順位	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳
1位	経済的問題	しつけ・マナー	しつけ・マナー	しつけ・マナー	しつけ・マナー	しつけ・マナー	しつけ・マナー
2位	健康・医療	基本的な生活習慣	基本的な生活習慣	性格・くせ	性格・くせ	教育	教育
3位	しつけ・マナー	触れ合う時間	触れ合う時間	基本的な生活習慣	教育	性格・くせ	性格・くせ
4位	触れ合う時間	健康・医療	性格・くせ	教育	心の発達	心の発達	経済的問題
5位	ストレス解消	性格・くせ	教育	ストレス解消	ストレス解消	小学校生活	心の発達

【概要・考察】

- 昨年度と同じく「子供のしつけ・マナー等の身に付け方」, 「子供の性格や「くせ」等」と答えた割合が高かった。
- 一方で、回答の数値が、昨年度からそれぞれ減少したことから、それぞれの悩みが減少傾向にあることがうかがえる。
- 中でも、「子供と触れ合う時間の確保」と答えた割合が、昨年度から8.1ポイント減少したことは、本アンケートの他設問結果において、昨年度と比較して「子供と触れ合う時間が1時間以上」と答えた割合が増加したこととの関連性もみられる。

4-2 子育ての悩みについて誰に相談していますか。(該当するもの全て選択)



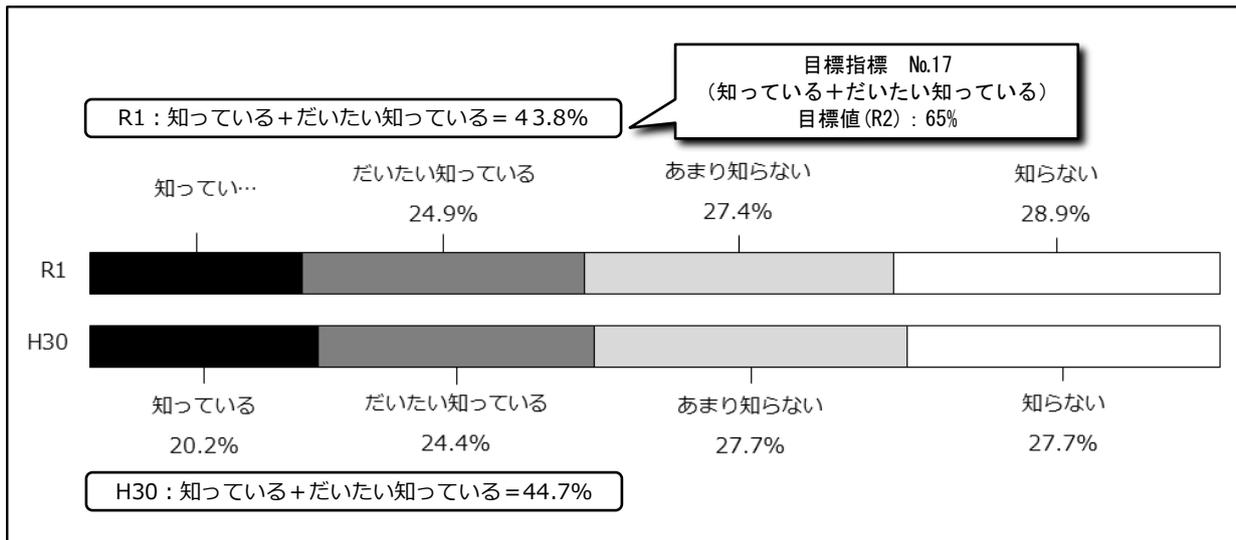
【その他の主な内容】

職場の人、医療関係者、SNS上の知人、園・所の保護者 等

【概要・考察】

- 子育ての悩みについて相談する人がいると答えた割合は、昨年度から0.6ポイント増加した。
- 一方で、「誰もいない」と答えた割合が1.9%だった。全2,559件の回答数のうち49件の保護者が相談する人が「誰もいない」という結果だった。
- 子育ての孤立化は、児童虐待などに発展する事案があることから、子育ての悩みを相談できる窓口の情報を提供する必要がある。

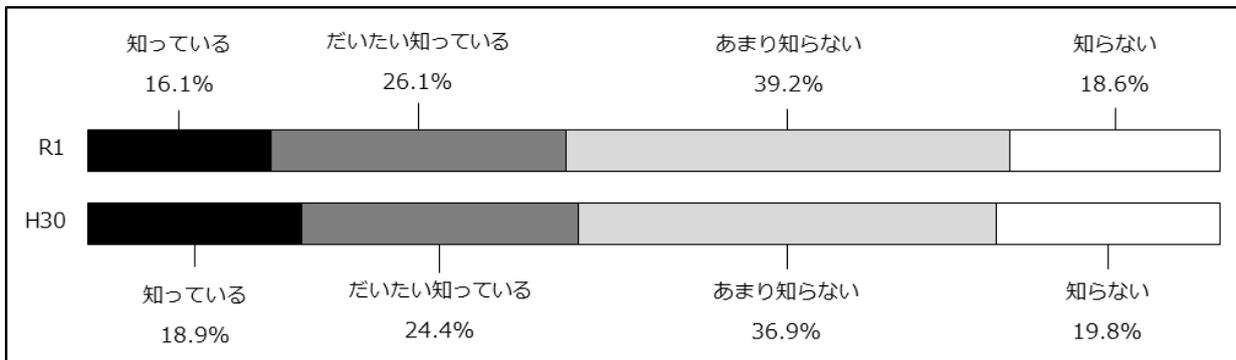
4-3 お子さんの行動（落ち着きがない、パニックを起こしやすい等）が気になるときの相談先を知っていますか。



【概要・考察】

- 発達障害等について相談したいとき、どこに相談すればよいか「知っている」、「だいたい知っている」と答えた割合は、昨年度から0.9ポイント減少した。
- 今後、発達障害等について相談できる窓口などの情報をどのように提供していくか検討する必要がある。

4-4 発達障害（ADHD、LD、自閉症など）の一般的特徴やかかわり方などについて知っていますか。



【概要・考察】

- 発達障害の一般的特徴やかかわり方などを「知っている」、「だいたい知っている」と答えた割合は、昨年度から1.1ポイント減少した。
- 発達障害の一般的特徴やかかわり方を知ることにより、発達障害への適切な理解や発達障害のある子供やその保護者との相互理解につながるため、情報を積極的に提供する必要がある。